

R7 5年生 FEWC イノベーション企業訪問研修@シンガポール 報告

研修の目的：世界に貢献するための創造的な提案を行うことを目指して、4年次より行ってきたイノベーション学習（イノベーションの基礎理論の学習、自ら興味のある特定のテーマについての学習）に基づき、シンガポールでの企業訪問における実際の見聞を通して、イノベーションとは何かを深く知り、自己の課題研究においてイノベーションの考え方を活かした提案ができることを目標とする。

実施日：2025年10月6日

訪問先企業(または研究機関)： Singapore Symphony Orchestra, Hot Palette, MUJI Singapore, Zenith Education Studio, Singapore Chinese Cultural Centre, Toho Entertainment Asia, Nanyang Technological University, Mitsubishi Heavy Industries Asia Pacific Pte. Ltd., Microsoft Singapore, MUFG, IHI, JETRO, ARAYA Shoten, SCS, Global, PARCO, TomoWork, Pasona Singapore, Nippon Travel Agency Singapore, Japan Embassy

※今回の企業訪問は、三菱みらい育成財団の助成金の支援を得て、実施しています。



訪問当日の様子：







感想 (「シンガポール海外修学旅行を振り返る：「企業訪問についての感想を書いてください」に対する回答より)：

○イノベーションとはこのことなのだなと思えるくらい凄かった。日本とのメニューの違いやオーダー方法などが革命的だった。

○業務内容だけでなく、シンガポール全体の経済、日本との違い、現在の課題などなどをわかりやすく話していただいて、日本に勝っている部分、日本と同じ部分を知り、シンガポールの実情を知ることができた。

○自分たちでアポ取り、しかも日系企業でもない企業で、たびたび連絡がつかなくなるなど正直かなり不安だったが、それに見合うぐらいの知見は得られた。

○企業訪問中も絶えずにお客さんが来店していて、忙しい中で受け入れていただいたことに改めて感謝の気持ちを覚えた。S社を訪問して、こだわりの強さに驚いたと同時に、他国に新しく会社を作るにはそれだけのこだわりや覚悟が必要なのだなと思った。環境への配慮もすごくて、本当に行ってよかった。

○短い時間だったが、シンガポールの歩みや、スタートアップに必要な心の持ち方など、貴重なことをたくさん聞くことができた。去年のシリコンバレーにいった経験も含めて、やはり日本のなかに視野を置いたままではこれから先、成功することは難しいと感じた。



○訪問先で自分の FEWC の発表をしなければならないことになっており、とても不安だったが、発表してみると企業の方が自分の研究についてたくさん話してくれたので、話が弾んで楽しかった。ランチも誘ってくれて、企業の方のシンガポールでの日常の話や、話終わらなかったことを聞くことができたのが非常に良かった。

○イノベーションについての理解が深まった。簡単な英語を使ってくれていたと思うが、意外と聞き取れたので勉強になった。現地の大学生がわかりにくいところを翻訳してくれたり、意図を伝えたりしてくれたので、スムーズに進んだ。

○スタートアップについて興味があったので、シンガポールの環境下ではどうして発展できるのかということ詳しく聞くことができて、非常にためになった。

○シンガポールの歩んできた社会、またこれからはこういった社会になっていくのかについて詳しく説明してもらえた。教えてもらった視点で国を見てきたことがなかったのでもいい経験になった。

○相手も少し日本語が喋れるようでしたが、基本的にすべて英語で相手のイノベーションに関するプレゼンを聞くことができ、英語のリスニング力が上がったように感じた。また、発表がとても上手で自分たちにもわかるような表現を使ってくれていたのが助かった。これからの社会を生きる自分たちには何が 필요한のか、こういった

ことをすればよいかなどを聞くことができてとても有意義な時間だった。

○英語で1時間喋り倒す決心をしていたので、日本語が話せる人が対応してくれて拍子抜けたと同時に安心した。シンガポールが今の企業にとってどのような立ち位置にいるのか、これからの日本のスタートアップ企業には何が求められているのかなどを、専門的に伺うことができて面白かった。シンガポールだから聞けるお話もたくさんあり、とても有意義な時間になった。

○OT社はきちんと訪問に対して準備をしてくれて、意義のある企業訪問になってとてもよかった。シンガポールに進出した理由など将来において重要なことを知ることができてとてもよかった。障がい者への支援を中心としている企業への訪問であったが、私たちの将来も考えさせられる貴重な機会を設けてもらえてありがたかった。

○わざわざシンガポールまで行って、見せてもらう立場なので緊張したが、企業側の方々の優しい説明や対応でとてもリラックスして講義などに集中することができた。シンガポールまで発展した企業ということもあって考えているスケールが大きいと思った。

○OM社というグローバルで最先端な企業で実際に働く人のお話を伺うことができ、どのような意識をもって働いているかやAIに関する見解などかなり多くのことを聞けて素晴らしい経験だった。

○自分が気になっていた金融分野についてのお話を伺うことができたとともに、持続的な成長には多様性と柔軟性の両方が必要であり、国際的なイノベーションや協働を進める際には現地文化への深い敬意が欠かせないということを学べた。今回の訪問を通して、国境を越えて人やアイデアをつなぎ、新たな価値を創造していくような国際的なビジネスや金融の分野への情熱が一層強まり、自分の進むべき方向性がより明確になった。



学んだこと

(事後アンケートの質問「イノベーション学習を終えて、あなたはイノベーションとはどのようなものだと理解しましたか。この学習を通してあなたがわかったこと、気づいたこと、発見したことなどを、自由に書いてください。」への回答より)：

○最初はイノベーションという考えをあまり好まなかったけれど、学んでいくにつれて今後の日本の成長には避けては通れないものだと実感した。

○そう難しいものではない、ちょっとしたことに問題点を見つけてそれを解決しようとするだけでもイノベーションといえること。

○古い概念を結び付けて新たな概念を創造すること。

○イノベーションとは、多様な人とかがわったり、日頃から周りのことに目を向けていくことで、自分にも関係の持てるものではないかと思いました。

○実際にシンガポールに行ってみて、思ったところには行けなかったけど、すべての人々にとって、これからAIに仕事がとられていく中でどのように生きていくのかの一番核心となるのが、イノベーションだった。

○イノベーションとは、誰も足を踏み入れたことのない領域を、今までの経験や仕組みを革新的に用いながら切り開いていくこと。

○人々のニーズを知り、環境や社会情勢に合わせ現代の社会にマッチした技術革新や、意識改革を行うこと。既存の製品、技術を新たに活かすこと。

○イノベーションとは効率性と幸福さ、そして環境に配慮とすべての項目を網羅したときに生まれる今ない発想。

○当たり前ではあるが、イノベーションを含んだ活動をしている各企業は、企業ごとに違った核から掘り進めたり広げたりして、イノベーションを生み出しているのだと学んだ。したがって、イノベーションを実践するには、

下心から見様見真似で創られるものではやはり上手いかず、長い時間と労力をかけていく必要があるのだと思った。本校で行われている FEWC プロジェクトにも近いものを感じて、今までの軌跡に納得がいった。

○わたしはイノベーションを起こすのはとても難しいことだと感じていました。なぜなら今までになかったものを生み出すと言うのは、大人の人が考えて考えてなんとか絞り出して生み出すものだと思っていたからです。しかし、多くのイノベーション学習を通して、それは間違っていたと気づきました。イノベーションは椅子の上に座って考え続けることで生まれるのでも、頭が良くないと生み出せないのでもなく、自分の興味がある分野を掘り下げて、自分が理想とする世界を創造することで生み出すことができると学びました。

○新たなものを生み出すだけでなく、今あるものを新たに組み合わせたり、新しい使い方を、見出していくことがイノベーションだと知った。

○世界にとって新しくないことでも、見方を変えて新たな発見をするということ。

○できそうにないことを実際にやってみること。

○爆発的な社会変化を与えるものではなく、日常を日常たらしめるもの。

○2つの別の分野のものを繋げて新しいものを考えること。人々が欲しているものではなく、必要としているものが成功するイノベーションだと思う。

○世界がより良くなるもの、人の悩みに合わせたイノベーションが存在する。

○イノベーションについて名前しか知らなかったけど、イノベーションとは何か、どんなメリットが有るのか、なぜそれが必要とされるのかなどについて深く知ることができた。色んな人の講演を聞いて、その人がした経験を追体験できておもしろかったし、新しいことに挑戦する勇気がすごいなと思った。

○身の回りの小さな気づきを勇気をもって実現しようとする試み。

○イノベーションとは、新しい価値を生み出し、社会や経済に変化をもたらすことだと思った。単なる新しいアイデアや技術の発明にとどまらず、それを実際に活用して、人々の生活やビジネスの仕組みをより良くするプロセスなんだと思う。

○自分の知る世界が広がるところに楽しさがある。

○自分の見えないところでもイノベーションやそれに関連したことはたくさん行われている。

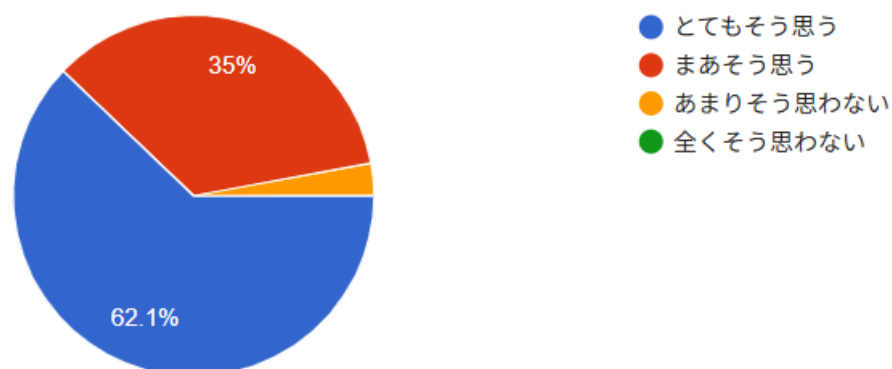
○色々な人と話したり共同活動をして新しいアイディアと一緒に生み出すこと。

○信念をもって、何が何でも課題を解決しようとして初めてたどり着くもので、イノベーションを起こすことが目的ではなく、「こうしたい」という目的に向かううえで生まれるもの。

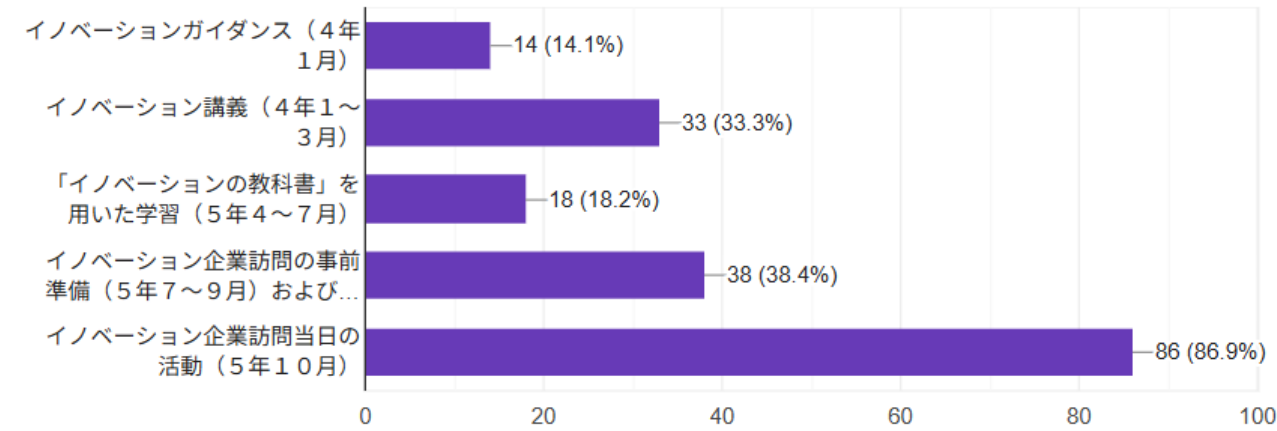
○今までにない形で、今まで注目されてこなかったものを需要に合わせて有効に使うビジネス。

学習到達度への評価（イノベーション学習事後アンケート調査結果より）：

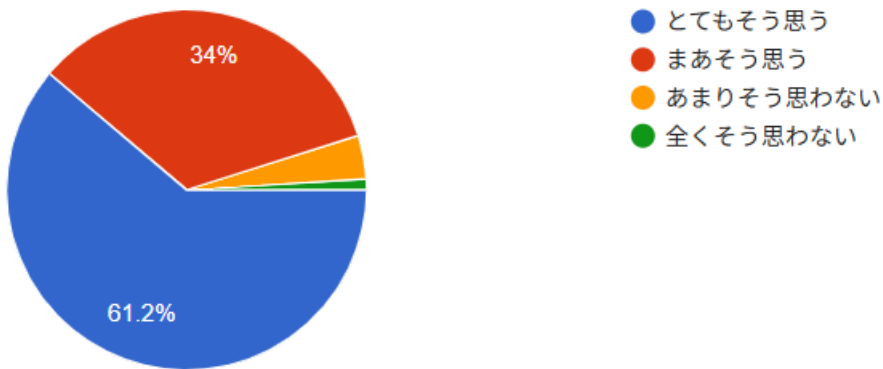
イノベーション学習（4年3学期～5年2学期）を行う前と行った後と比較して、あなたのイノベーションに対する理解は深まったと思いますか？



上記質問で「とてもそう思う」または「まあそう思う」と答えた人に尋ねます。理解を深めるのに大いに役立ったと思われる FEWC での学習活動を、以下の選択肢から選んでください（複数選択可）。



イノベーション学習は、あなたが自分の課題研究において創造的な提案をすることに役立った、または今後役に立つ、と思いますか。



イノベーション学習は、あなたが将来創造的な人材として社会に貢献するための準備として、役に立つと思いますか。

